



医療・介護・健診データベースを用いた臨床研究

西岡 祐一

Yuichi Nishioka

公衆衛生学／助教

■**キーワード** レセプト、診療報酬情報、データベース、医療、介護、健診、名寄せ

シーズ概要

近年レセプトデータベースを用いた研究が発展し、リアルワールドが可視化できるようになってきた。国際的にもレセプト (Claims Database) などの大規模データを用いた臨床研究が大きな流れの一つとなっている。しかしながら、大規模データを扱うには現状では莫大な初期投資と集計技術の集積が必要であり、日本では諸外国に比べデータベースを用いた研究が少ない。一方、日本は国民皆保険制度を有しており、他国の Claims Database よりも一般化可能性の高い研究が実施可能である。我々は、データベースの利活用を促進するために基盤技術や集計結果を広く公開している。また、構築したデータベースを利用して、多数の臨床専門家・研究者との共同研究も実施している。

研究成果の応用可能性

「データベース医学」とでも言うべき新たな医学の一分野の誕生・発展し、データベース研究への参加者は増えてくると予想されるが、データ量が大きいこと、取り扱いが難しいことが依然障壁になることが懸念される。データベース研究をより発展させていくには、誰でも利活用できる基盤を構築していくことが求められるが、まだまだ解決すべき点は多い。

Appeal Point

アピールポイント

医療・介護・健診データベースを駆使してリアルワールドを可視化するとともに、健康寿命の延伸に貢献していきたい。

関連文献／特許

1. 日本整形外科学会雑誌 93 (11) 959 - 979.
2. データベース医学の幕開け. 再生医療 18(4) 391 - 406.
1. 特開2020-190785
2. 特開2019-185403